

『迎えの三歩 見送り七歩』

近江八幡市教育長 日 岡 昇

こんにちは！教育長の日岡です。今年も半年が過ぎ、7月を迎えました。7月は「文月」とも言います。「文月」は「ふみづき」と読み、その意味・由来・語源には諸説があります。なかでも「文披月」(フミヒゲヅキ、フミヒキヅキ)が略されて「文月」に転じたという説が有力です。この文披月とは、書道の上達を祈って、短冊に歌や願い事などを書く、七夕の行事にちなんだ呼び方だといわれています。

さてその「七夕」は五節句の一つです。節とは季節の変わり目のことをいい、節の中でも最も気候の変わり目が激しい五つの節を五節句というそうです。1月7日の「人日」(七草節句)、3月3日の「上巳」(桃の節句)、5月5日の「端午」(菖蒲の節句)、7月7日の「七夕」(星祭)、9月9日の「重陽」(菊の節句)の五つです。

その昔、「七夕」には「ホオヅキ」の根を陰干しにして、薬湯にして飲むという風習がありました。その薬湯を少量飲むと便秘に効くようです。ただ飲み過ぎると下痢になるようです。(ちなみに私は飲んだことはありませんので、保証しかねますが・・・) 要するに節句は日常生活の健康維持や病気予防など、当時の特に女性の健康を少しでも良くしようという願いが、日本特有の政(マツゴト)に込められていたようです。昔の日本は男尊女卑というイメージが強いですが、こんな一面もあるんですね。私たちの祖先は、高温多湿な気候の中で、一生懸命働き、体を鍛え知恵を働かせ「海の幸」「山の幸」の恵みを受けながら文化を育んできました。

このように節句は、「健康を維持する日」であったのです。これからの季節は熱中症をはじめ、夏バテによる食欲不振や熱帯夜による睡眠不足、食中毒やエアコンによる冷房病などに罹りやすい時期でもあります。市民のみなさまも十分に留意ください。

さて、先日会社経営をしている友人と会った時の話です。約束の時間に会社に行きました。彼は玄関先まで迎えに来てくれていました。話を終えて帰る時、彼は迎えと同じように玄関先まで出て、私の車が見えなくなるまで見送ってくれました。実にすがすがしい気分です。まさに「迎えの三歩、見送りの七歩」の接遇です。私たち市職員は、果たしてこのような対応が市民のみなさんお一人お一人に出来ているのでしょうか。学校も同じことです。県や市の教育委員会、各行事の来賓の方たちだけでなく、保護者や地域のみなさん、そして全ての子どもたちに対してもこの姿勢が大事なことは言うまでもありません。そしてこのことが、市役所や学校から市民のみなさんに広がり、誰に対しても親切に出来るまち「近江八幡市」になることを願っています。